

## 創刊一〇〇号記念特集号の発刊に際して

早いもので、歴史地理学会会報も一〇〇号目を迎えることとなった。昨年、学会創立二〇周年を祝ったばかりなので、会員の一人として二重の喜びに浸っている。

学会の刊行物としては『歴史地理学紀要』があるが、このほうは周知のように毎集テーマごとに編集され、会員の研究成果を広く世に問うものである。しかし、年一回の刊行では、動もすれば学会と会員諸賢の交流という点では疎遠になり勝ちである。わが学会のような小学会では、その交流を濃密にすることこそ、将来の学会発展のために大切であることが真剣に考えられ、紀要刊行の合間に隔月に会報が出されることとなった。斯様な目的と動機で出されたため、その名称も『会員通信』と称して、昭和三四年六月に第一号が発行されるにいたった。ここに『紀要』と『会報』の二本建となつて今日に及んできた。続いて昭和四九年五月発行の第七四号から『歴史地理学会会報』と改称したが、その内容はこれまでの『会員通信』と呼ばれていたものと少しも変わりはなかった。丁度その年は学会発足より一五年目にあたる年でもある。その間の学界の発展、それに会員からの会報内容の充実の要望もあつて、会報の検討がなされた結果、昭和五〇年五月発行の第七九号より現在の内容をもつ会報となった。その内容は従来とちがつて、論説・短報など会員の研究成果を織り込み、学会機関誌としてひとまずふさわしいものになり、また体裁も衣がえした。幸い、今日では会報掲載の会員成果は人文地理学会編の『地理学文献目録』に収録されることとなった。これは会報に対する評価が高まってきたものと素直に受け取つてもよいと確信する。

しかし、これで満足すべきではなく、一〇〇号目を一つの契機として、今後一層の充実を図り、その水準を高めていかねばならないと思う。

最後に、本号発刊にあつて直接学会の発展に力添えを下さつた浅香幸雄・藤岡謙二郎・米倉二郎の元、前会長先生、それに会長菊地利夫先生、さらに前常任委員長の中田栄一先生らから玉稿を頂戴したことを誌上から厚くお礼を申し述べたい。

昭和五十三年十一月

常任委員長 山崎 謹 哉